

二子山に登ってみました



登山道入り口。刈り払いはしていませんが、看板などは何もありません。



木の鳥居があったと思われる場所は、今では雑木林。



道は崩れ斜面を歩く感じ。子どもはちょっと危ないかな。



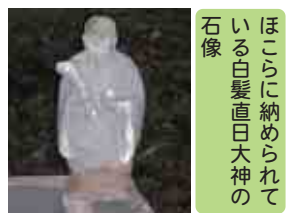
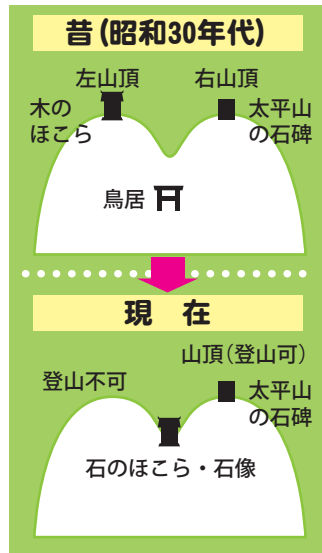
出口地区の有志が建てた石のほこら。手を合わせて山頂へ。



斜面がきつく、やや息切れ。あともう少し!!



山頂は平坦な部分があり、真ん中に太平山の石碑が。石碑の前には土俵跡と思われる円形のくぼみ(点線)がくっきり。



右山頂には、地域の守り神として「太平山」の石碑(自然石)が鎮座しています。いつ石碑が置かれたかは定かではありませんが、言い伝えでは比立内地区の豪農「田山惣太郎」の息子がとても力持ちで、げた履きで担ぎ上げたとのこと。後に相撲取りになったものの、相撲よりも遊興ばかりに力を入れ過ぎ、一家の財産をすべて失ったんだそうです。また石の前では、数十年前まで日照りのときの雨ごいに、女性が相撲を取っていたとのこと。

です。昔を良く知る高齢者は実際に見ていたそうで、今でも土俵跡と思われる円形のくぼみが確認出来ます。山の中腹には木製の鳥居が建っていて、昭和30年代に撮影された写真にはその姿が残っていますが、いつのころか鳥居も山頂の木も朽ちて無くなってしまいました。その後、昭和49年に出口地区の有志らが集めた資金で白髪直日大神の石像を作り、石造りのほこらを再建して納めています。

山の整備を続ける 出口地区「双子会」

現在の二子山はどうなっているのか。今では左山頂への登山道は無く、右山頂を目指して登ってみることにしました。山の中は雑木や松、杉などが茂っていました。登山道の草などは刈り取られ、山頂まで30分ほどで到着出来ました。刈り取りをしたのは、出口地区の地域活動団体「双子会」の皆さん。会では、山に人々が集った昔の日々のにぎわいを求めて、登山道の整備を進めていました。今年7月には、市が地域活動を応援するために補助金を交付する「地域応援プラン」にも応募し、地域の活性化を目指しているとのこと。どのような取り組みなのか、会長の佐藤さんからお話を聞いてみました。

(左) 田代総合支所や早口地区の町なみが一望。(右) 市立総合病院や大町地区周辺の町なみも見えました。

